

令和元年の年越し蕎麦

江戸ソバリエ・ルシック
千葉ソバリエ会：小林照男

2019年の我家の年越し蕎麦は写真のようにシンプルな「かけ蕎麦」でした。



私が生まれたのは東京都板橋区板橋町八丁目（現在の仲宿）、13歳まで住んでいました。旧中山道の傍に家があり、その旧中山道沿いに懇意にしていた蕎麦店があって、そこから出前を取って食べる「もり蕎麦」が大好きでした。

また、店の脇の日当たりの良い場所に「出汁を採った後のカツオ節（2番出汁用ですね）」が大きなザルで干してあった事、又、その臭いも良く覚えています。

当時の我家の年越し蕎麦は、その蕎麦屋から出前をして貰った「かけ蕎麦」でした。所帯を持ってからの年越し蕎麦も当然「かけ蕎麦」で、テレビで除夜の鐘を聞きながら食べていましたので夕食とは別のいわゆるハレの食べ物となっていました。

江戸ソバリエになる1～2年前からは自らの手打ち蕎麦になり、偶には凝った種物にした事もありますが基本的に「我が家の年越し蕎麦」は「かけ蕎麦」なんです。